

短命県返上へ17年目始動

弘大・岩木地区大規模健診



指先の毛細血管の状況を顕微鏡で調べる医療スタッフと受診者

「短命県返上」の研究のため、弘前市岩木地区住民の詳細な健康データを長期間にわたって収集する「岩木健康増進プロジェクト健診（岩木健診）」が16日、岩木文化センターあそべーるを主会場に始まった。23日まで。17年目の今年は新型コロナウイルスの影響で2度延期となり、例年より5カ月半遅れの開催となった。

弘前大学、弘前市、県総合健診センターが主催。健診には例年1100人ほどが参加しているが、コロナ感染防止の観点からワクチン2回接種などの条件を設けたため、今年の受診者は約600人となる見込

み。

調べるデータは体格、血圧、内臓脂肪、体力、食事、喫煙・飲酒、職業・学歴など約3千項目にわたる。健診が終わるまで約4時間。季節作業員の女性（63）は「体脂肪などを知りたくて毎年楽しみに来ている。健診は体を整えるいい機会になっている」と笑顔を見せた。

岩木健診は2005年にスタート。データとデータをつなぎ合わせ、病気の予兆をつかみ、予防法を開発することが最大の目的で、県内外の20～30企業が研究に参画している。千人を超える人の膨大なデータを十数年分集積している事例は世界的に類がない。

プロジェクトリーダーの中路重之弘大特任教授は「2度延期して住民の皆さ

んに迷惑を掛けたけれども、一番コロナ（感染者）が少ない時期に開催できてうれしい。地域の人も楽しみにしてくれている。地域おこしの観点からもずっと続けていきたい」と話した。

（福土和久）